

共にしあわせ産みだす党 日本共産党  
市議団ニュース

第2016号 2022年04月25日

日本共産党 根室市議団  
根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

補聴器など日常生活用具の補助制度  
根室市の生活支援特別給付事業が開始



根室市では今年度から新たに、補聴器などの生活に必要な用具の購入などに対する補助制度を開始しました。制度の概要についてお知らせします。

補聴器など生活するために必要な器具であっても現在の国等の制度では、ある程度の障害認定されない限り給付対象にならないケースがあります。そのため根室市は、従来の各制度で日常生活用具の給付・貸付等の対象とならない方に対して、医師の診断で必要性が認められた場合に、市独自に日常生活用具の給付制度を実施する制度をつくりました。

制度の内容として、実際の購入費用のうち市民税課税世帯では1/2まで、非課税世帯で2/3までを市が補助します。対象となる品目と各品目の上限額は左記の通りです。なお市議会の予算委員会では、「仮に支給品目の追加が必要な場合があれば、福祉事業所など含め関係者等と協議・検討していきたい」と市担当課が説明していました。

また補聴器は長く使用していると調整・修理が必要となるため、修理費用は年1回まで助成されます。さらに各品目の再購入についても、品目ごとそれぞれ5〜8年程度に定められた耐用年数の経過後であれば、費用が助成されるそうです。

申請窓口は根室市の社会福祉課と介護福祉課の両方で受付しており、申請書と販売業者の見積書、医師が記載した意見書を提出します。

高齢や障害などがあっても地域で安心して暮らすために支えとなる重要な施策の一つだと思います。不明な点については、購入前に市担当課までご相談ください。

支給品目		限度額
補聴器	購入	¥50,000
	修理	¥10,000
たん吸引機		¥30,000
点滴スタンド		¥10,000
ネブライザー		¥20,000
パルスオキシメーター		¥10,000
車いす		¥30,000
IHコンロ		¥20,000
医師意見書の文書料		¥3,000

※補聴器は購入・修理ともに片耳分。医師が特に必要と認める場合は両耳の給付が認められる。

根室港区 中央地区・南地区の整備へ  
「港湾計画の軽易な変更」を実施



今回、計画に追加された根室港区中央地区整備。奥に見える根室漁業付近の海岸町物揚場について、浸水対策のため11mの前出しと天端高の50cm高上げを行う。また増深することで中央地区全体の水深を4.0メートルに統一し利便性の向上を図る。

今年3月、根室港の「港湾計画の軽易な変更」が行われました。これにより、中央地区整備に海岸町物揚場の増深化等の整備を追加し、沿岸漁業の水産基地機能として強化が図られます。南地区整備（本町・弥生町の付近）では規模縮小と施設の集約化が計画されました。

変更後の計画は、荒天時の越波が頻発していた海岸町物揚場について、増深化と前出し、嵩上げ等の改良を行い、高潮等の災害対策を進める内容となっています。

また南地区整備では、従来の計画から半分くらいの規模に縮小します。北方四島交流船「えとぴりか」などが停泊できる旅客バス等の新設、中心市街地の賑わいにつながる交流用の緑地等の新設、また老朽化する弥生町船だまりの代替施設を新設などを行い、その施設機能を従来計画より東側（本町側）に集約する計画となっています。

現在の港湾計画は1992年に改訂されました。それから約30年が経過し、社会状況は大きく変化してきました。近年は漁業不振が続き、また災害の頻発化など新たな課題への対応が求められきたそうです。さらに四島交流拠点として、高齢化が進む元島民をはじめとする利便性の向上が必要でした。こうした中、市は地域の関係者等の意見を踏まえながら、計画の変更作業をすすめ、この度、地方港湾審議会の承認をうけたものです。

根室市は中央地区整備の工事にむけ今年度、基礎的な調査を実施する予算を計上しました。市の担当課によると、翌2023年度には実施設計を行い、その後は国の補助事業を活用しながら改良工事を進めていきたい、とのことでした。

一方で南地区整備については、多大な費用がかかることが従来からの課題でした。これまでも根室市は北方四島との交流拠点として国の責任による整備推進を強く求めてきましたが、計画を縮小しても、それを実現することは大変な困難が予想されます。いまロシアのウクライナ侵略のために、日ロ関係では四島交流も漁業外交も深刻な状況を迎えています。国は内政措置である隣接地域振興対策について、抜本的に見直しを図る必要があるものと考えます。

带状疱疹の患者さんが増えている？

このごろ、そういう話をよく耳にします。統計を取ったわけではありませんが、市内にある診療所では、これまで年に数件ぐらいだった带状疱疹の患者さんが、昨年あたりから年20名近く来院しているそうです。増加した理由として、小児の水疱瘡ワクチン接種が進んできたことが影響している等とも言われています。また「新型コロナウイルス接種による影響では？」と指摘する記事も見ました。

ところで、いまは带状疱疹の新しいワクチン（シングリックス）が普及してきています。50歳以上の方が適応で予防効果がとても高いそうです。しかし2回接種ですが、自己負担が1回あたり2万円以上にもなる高価なワクチンです。隣の標津町では今年度から町独自に補助制度を行うそうです。

市内でこのワクチンを導入している病院があるかどうか分かりませんが、今後、根室市でもそうした補助制度が必要ではないかと思っています。